

スタンダードチャータード PLC

2013 年度業績予想

2013年12月6日

(本資料は、ロンドンにて2013年12月4日付で配信した発表資料の参考訳です。)

スタンダードチャータードPLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」「グループ」または「当行」)は、2013年度12月期年次決算報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しております。当文書では、当該説明会にてご報告する内容の詳細について述べさせていただきます。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズのコメントは、以下の通りです。

「困難な一年でしたが、スタンダードチャータードは引き続き顧客の皆様の事業活動と発展をサポートしてまいりました。当行は、その成長とリターンの適正なバランスの確保という短期的な目標の達成に取り組むとともに、収益への圧力に対応した厳格なコスト管理を成功裏に遂行してきました。当行は、非常に多様性に富む強力なバランスシートを維持しており、当行が事業を展開する市場の将来性への確信も不変です。」

以下の2013年度業績に関する説明には、自己クレジット調整(OCA)、韓国における営業権(暖簾代)コスト、2012年の米国当局との6億6千7百万米ドルの和解金は含まれていません。また、以下の比較数値は、特に明記のない限り、すべて2012年12月期通期を対照とし、2013年12月通期に関する現時点における当行の見通しを反映しています。

グループ

グループの業績は、市場の混乱にもかかわらず、引き続き堅調な顧客取引に支えられて推移してきました。8月に始まった市場環境の悪化は下半期を通して続いており、その状況は年末まで変わらない見通しです。その結果、下半期のグループの業績、とりわけフィナンシャルマーケット事業の業績に大きな影響を及ぼしました。

2013 年度通期の収益は前年比で概ね横ばいになる見通しです。部門別の収益伸び率は、コンシューマーバンキング部門が1桁台前半、ホールセールバンキング部門が概ね横ばいでした。ホールセールバンキング部門の顧客取引に伴う収益は、取引量は堅調に増加したものの、利鞘が大きく下がったことを反映して1桁台半ばの伸びにとどまりました。自己勘定収益の低迷の継続とフィナンシャルマーケット事業における収益下方圧力の強まりが2013年通期の全体の収益を引き下げる主な要因でした。

インドルピー・インドネシアルピアなど多くの通貨の対米ドル相場が下落しました。現時点においては、それにより収益と税引き前利益の伸び率が約1%下がると予想しています。

2013 年は多くの地域で収益の順調な伸びが見られました。例えば、香港・アフリカ・インドでの収益は2桁台の伸び率を記録しました。しかし、これら地域の増収は、その他の地域、特に2桁台の減収が予想される韓国での業績の低迷で相殺されました。

グループ全体の純利鞘は、当行が事業を展開する市場の多くで高水準の流動性が利鞘の低下を招いたために、2012 年通期の水準を若干下回っています。

コストの厳格な管理は引き続き徹底しており、規制・コンプライアンスに伴う大幅なコスト増、業務拡充に欠かせない投資の継続、約 6 千万米ドルに上る韓国における税務関連の特別損失、英国銀行税に伴う大幅なコスト増が相次いだにもかかわらず、全体のコスト増は 1 桁台前半で抑えることができました。2013 年度の英国銀行税に伴うコストは、2012 年度の 1 億 7 千 4 百万米ドルを上回る約 2 億 5 千万米ドルになる見通しです。

下半期の「その他の減損」を含むグループの減損総額は上半期を上回ることが予想されますが、最終的な数字は 2014 年 3 月の 2013 年度通期決算の発表時に確定する予定です。

バランスシートは引き続き流動性が高く、保守的に維持されており、商品・業種・地域のいずれにおいても多様化が十分に進んでいます。グループのバランスシートは資産・負債の両サイドで拡大が続いており、2012 年度比での伸び率は、顧客向け貸付金がほぼ 2 桁台、顧客預金が 1 桁台半ばとなりました。リスク加重資産 (RWA) は、連結対象に組み込まれたインドネシアのペルマータ銀行への出資分 70 億米ドル分を除くと、概ね貸付金の伸びに応じた増加となっています。2013 年中に英国健全性規制機構 (PRA) による新たな規制変更が行われる見通しで、その場合は RWA の増加額もそれを反映したものとなります。

グループの資本基盤は引き続き盤石で、コア Tier1 自己資本比率は上半期とほぼ変わらない水準で推移しています。

グループは引き続き非常に強力な資金調達構造を維持しています。スタンダードチャータード PLC は、最近 10 月にも Tier2 (自己資本の補完的項目) に組み込まれる期間 12 年の劣後債をベンチマークとなる総額 12 億 5 千万ユーロ発行し、11 月には期間 5 年の無担保優先債を総額 12 億 5 千万ユーロ成功裏に発行しました。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の 2013 年通期収益は 1 桁台前半にとどまる見通しです。これには、当行が事業を展開する国の通貨の対米ドル相場が若干軟化したこと、韓国において引き続き実施しているリスク軽減策、それに最近ではウェルスマネジメント事業における投資家の冷え込みを反映しています。

韓国におけるコンシューマーバンキング事業は、困難な市場環境が続いていることに加え、ポートフォリオのリスク軽減、予定されていた韓国におけるコンシューマーファイナンス事業の売却を反映して、約 15% の減収になると予想しています。

韓国を除くコンシューマーバンキング事業の収益は 1 桁台半ばの伸びとなる見通しです。香港・アフリカの収益は 2 桁台、インドと中国の収益は 1 桁台後半の伸びとなっています。一方、シンガポールの収益は、利鞘の低下圧力と住宅ローンの落ち込みから、2012 年度比で概ね横ばいです。

商品別に見ると、住宅ローン事業の収益は、多くの市場における規制強化で住宅ローン総額が伸び悩みましたが、それを利鞘の改善が相殺した形となり、2 桁台の伸びが予想されます。

預金収益は、預金平均残高が 1 桁台半ばの伸びとなっているものの、利鞘縮小の影響が大きかったために、1 桁台後半の減少となる見通しです。

ウェルスマネジメント事業の収益の前年比の伸び率は 1 桁台前半となっています。相場変動が大きくなったことで投資家心理が冷え込んだために、下半期の収益は上半期を 2 桁台ほど下回る見通しです。

クレジットカード・不動産融資事業の収益は 1 桁台半ばの伸びが予想されます。それぞれの期末残高は、主に韓国において引き続きリスク軽減措置を講じたために、全体的には増加が相殺され、2012 年比で横ばいとなっています。

中小企業 (SME) 顧客向け事業の収益は、上半期の伸び率を概ね維持して、1 桁台前半の伸びが予想されます。トレードおよびワーキングキャピタル事業の拡大が預金収益の減少を補いました。SME 関連事業の資産は有担保・預金主導型が圧倒的な比率を占めています。

コンシューマーバンキング部門の費用は引き続き厳格に管理されています。5 千万米ドル前後の費用の増加が予想されますが、JAWS(収益の伸び率と費用の伸び率の差)は 2013 年度全体ではポジティブとなる見通しです。

コンシューマーバンキング部門の下半期におけるクレジットコスト(減損費用)は、前回の説明通り、引き続き高い水準で推移しており、上半期比では数千万米ドルの増加となる見通しです。一方クレジットの質には、無担保融資の増加ペースを抑える決断と、契約査定基準の引き上げの効果が表れています。今後のリスク指数は 2012 年末時点のものが概ね同じ水準が維持されています。しかし、韓国全体の個人再生手続き(PDRS)の申請件数は過去 2 ヶ月ほどで増えました。

以上の結果、コンシューマーバンキング部門の 2013 年度営業利益は 2 桁台の減少が予想されます。韓国を除くと、同部門の営業利益は 1 桁台後半の伸びになる見通しです。韓国では最大 2 億米ドルの営業損失の発生を見込んでいます。その中には、韓国で予定しているコンシューマーファイナンス事業の売却に伴う推定 5 千万米ドルの売却損、それに前述の税務関連の特別損失が含まれています。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の収益は、前期比で概ね横ばいで推移しています。旺盛な顧客取引が顧客収入の 1 桁台半ばの伸びを支えています。しかし、その伸びは、自己勘定取引、とりわけフィナンシャルマーケットに加えて、前回の説明でも触れたプリンシパルファイナンス事業・ALM の収益が低迷を続けているために、相殺されています。

トランザクションバンキング事業は1桁台前半の減収が予想されます。これは、トレードファイナンスおよびキャッシュマネジメントの収益がそれぞれ1桁台前半、1桁台半ばの減少となることを反映しています。トレードファイナンス、キャッシュマネジメントの取扱高は2012年比で2桁台の増加となっていますが、利鞘は大幅に下落しています。トレードファイナンスの利鞘は26ペーシスポイント(bp)で18%減、キャッシュマネジメントの利鞘は15bpで16%減となっています。2013年第4四半期にはいつてからは、トレードファイナンスの利鞘は若干縮まっていますが、キャッシュマネジメントの利鞘は概ね安定しています。

コーポレートファイナンス事業の業績は引き続き好調で、2桁台の収益が予想されます。一部で取引に遅れが出たことを受けて下半期の収益の伸び率は若干下がっています。しかし、コーポレートファイナンスの需要は依然として強い状態が続いています。

第4四半期に入りフィナンシャルマーケット事業の業績は不本意な水準で推移しており、第3四半期比では減少となっています。市況が当初予想されたほど改善しなかったことが要因です。2013年全体で見ると、フィナンシャルマーケット事業の好調な増収は、為替関連の2桁台の伸びが金利、クレジット、キャピタルマーケットの業績の落ち込みを相殺したおかげだと言えます。フィナンシャルマーケット事業の顧客収益は堅調に推移しており、1桁台後半の伸びが予想されますが、下半期の伸び率は大きく鈍化しています。フィナンシャルマーケット事業の自己勘定収益は前年比で15%超の大幅減少となっています。

プリンシパルファイナンスおよびALMの収益は弱含みの展開となっており、両事業とも2桁台の減少が予想されます。プリンシパルファイナンスの収益は、投資先企業が減収となり、その評価額が1億米ドル超も下落した影響を受けました。ALM収益は、長引く低金利環境とリスク軽減機会の減少に影響を受け、2012年比で15%近くの減収が予想されます。

ホールセールバンキング部門の収益が概ね横ばいとなる一方で、同部門の費用は引き続き厳格に管理され、増加率は1桁台前半に抑えてきました。2013年度を通した費用増加率は、収益増加率を上回るものの、顧客収益増加率は下回ると予想しています。

ホールセールバンキング部門の減損総額は2012年の水準を下回る見通しですが、最終的な数字は2014年3月の2013年度通期決算の発表時に確定する予定です。同部門のポートフォリオは引き続き多様化され、期間は短く、クレジットの質は良好です。前回の説明でも触れましたが、グループは特にインドでの業績を依然として注視しています。

以上の結果、ホールセールバンキング部門の営業利益は現時点では前期比で横ばいとなる見通しです。

最後に

グループの収益とバランスシートは、商品・顧客部門・地域のいずれの点でも引き続き十分に多様化されています。グループの資本基盤は依然として盤石で、資本構造はしっかりしており、流動性も高いものとなっています。11月のインベスターデイでもお伝えしましたが、当行はその成長とリターンの適正なバランスの確保という短期

的な目標の達成に取り組んでいます。当行は、顧客の皆様の事業活動と発展のサポートに力を入れることで市場シェアを伸ばしていますが、当行が事業を展開する市場の大きな将来性と当行の競争力への確信は変わりません。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測される出来事に基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来の出来事や情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。